saveMLAKプロジェクト
2026/10/01 発行

saveMLAK ニュースレター

第88号

年次報告会2026開催

2026年6 月28 日（日）に saveMLAK年次報告会を開催しました。第2部「3.11、あの時、私たちは何を していたか — saveMLAK 15 年の対話」において、次の課題が浮上しました。

1. 2011年東日本大震災、当時の経験とその後

- **現場での対応**:（熊谷氏） 宮城県の職員として県立図書館業務や支援受入を担当。若い世代・若手職員の立場で現地対応や支援者側との連携に深く関わった。
- **団体・組織のノウハウ継承**: 2011年以前の災害ノウハウが十分に継承されておらず、3.11当時は手探りの対応となった。その後、当事者意識を持ったメンバーへの「選手交代」や、現地（当事者）の声・意思決定を尊重する体制づくりが進んだ。

2. 「属人性」と「信頼関係」のあり方

- **信頼と人間関係**: 災害支援や緊急対応は、日頃の付き合いや個人同士の信頼関係（属人性）に基づいて動く部分が大きい。
- **ノウハウの組織化・システム化**: 信頼関係の構築には属人性が不可欠である一方、業務・復旧のノウハウ自体は特定の人に依存させず、記録・見える化して「誰でも参照できる仕組み」にしていくことが重要。

3. 情報収集・公開における難しさ

- **個人情報と情報公開**: 2011年東日本大震災直後は情報共有の優先度が高かったが、その後の災害においては個人情報・セキュリティ管理が厳格化し、Wiki等への情報掲載・共有が難しくなっている。
- **基礎リストの不在**: 専門図書館、公民館、私立の博物館・美術館など、全国規模の包括的なリストが存在しない問題は現在も解決していない。

4. saveMLAK・Wikiの今後とデータの継承

- **サーバー維持と技術継承**: Wikiサーバーの維持管理・セキュリティ対策は特定のメンバーのボランティアに依拠しており、コスト・負担が課題となっている。
- **長期的な保存**: 今後10年を見据え、Wikiを静的データ化（閲覧専用化）することや、国会図書館（ひなぎく・WARP）等へデータを移管・保存してもらう仕組み作りを検討する必要がある。

4について、皆さまのご意見を伺えると嬉しいです。ぜひMeetUpにご参加ください。

最近の活動

- 2026年6月28日（日）年次報告会2026　兼第 181 回 MeetUp を開催
- 2026年7月21日（火）第182回MeetUp開催
- 2026年8月23日（日）第183回MeetUp開催
- 2026年9月23日（祝・水）第184回MeetUp開催
- 2026年10月11日（日）第185回MeetUp開催予定
- 2026年10月20・21・22日（火・水・木）図書館総合展ポスターセッション参加予定

編集後記

2026（令和8）年7月熊本地震、8月千葉豪雨、9月台風25号による被害と、災害が続いています。saveMLAK WEBサイト、たとえば「みんなで育てる図書館災害救急ボックス」
https://savemlak.jp/wiki/QQbox
が、復旧の参考になることを願っています。

【編集担当:S uchita】

編集発行：saveMLAKプロジェクト
発行日：2026年10月01日（木）（第88号）
発行所：神奈川県横浜市中区相生町3-61 泰生ビル さくらWORKS<関内>407
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
saveMLAKプロジェクト
E-mail：pr@savemlak.jp
URL：https://savemlak.jp/

※saveMLAK　ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません